

2023職場体験 感想文コンクール

タイトル	工場勤務員の実態	事務局	715
学校名	酒田市立東部中学校	氏名	佐藤 緋桜

僕の東部中学校では、7月19日に午前の時間を使って職場体験をしました。企画の名前はWakuwakuwork (ワクワクワーク) で、「職業を通して地元への愛を深め、地元で働くことの魅力を伝える」というのがテーマです。この職場体験は、生徒が行きたい会社などに行くのではなく、各々の会社の派遣の方が学校に集まって、学校内のどこかで体験や学習をする感じです。会社のジャンルは本当に多彩で、自衛隊や写真家、建築家などがありました。僕は工業系の企業に将来入りたいと思っているので、その中から「セルポール工業」と「産業技術大学」を選びました。セルポールはともかく、なぜ産業の大学があるかという点、体験できる項目の一つに「プログラミング的思想」というのがあったからです。ですが、僕の思っていた感じのものではなく、「就職へ向けてのスタートダッシュはどうすればよいのか」みたいな内容でした。それはそれでタメになりましたが、ちょっと肩すかしでした。それに比べセルポールは、僕の思っていた想像以上のことを学ぶことができました。セルポールは、プラスチックを制作している会社で、主に通気性があって、水をろ過したしたフィルターの役目を持つような特殊なプラスチックをつくっています。僕は、この会社の体験会で、主に3つのことをしました。

1つ目はプラスチックの整形の仕方です。プラスチック粉末を、金属の型にはめて、長い時間高温で溶接するといったものでした。思ってたより意外と簡単でしたが、プラスチックが型からはみだすくらい多いとバリが付いてしまったり、逆に少なすぎると中でプラスチック曲がって成形不良になったりしてしまいます。調整が難しく、奥が深い作業だと思いました。

2つ目は、できたプラスチックの検査です。他の会社の商品としてプラスチックを送るとき、部品なので、1cmでも誤差があったら、詰まったりして大変なことになります。そのための検査です。

今回の体験では、輪っか状のもので検査したのですが、中の経を測ったり、直径を輪っかが割れない絶妙な力加減でノギスで測ったりと、体験したことの中でも特に繊細な作業でした。集中力があるし、部品として出すので、何百、何千も同じ部品をこうすると思うと、本当に頑張っているんだなと思います。

3つ目は、異物などが混入していないか確かめる作業です。電子顕微鏡を使い、対物レンズが映し出され

ている表面をテレビに映して探します。異物を発見した場合、その異物はどのようなものなのか、どこで入ったのか、入らないよう改善することはできるのか、などを社内で話し合うそうです。この作業に関しては、観察眼や視力がとても重要になると思います。電子顕微鏡は使いますが、それでもよく目を凝らさなければ分からないようなものが沢山ありました。しかもこれを流れ作業でやるというので、職人技だなと感じました。

さて、最後にセルポールの体験を通して、「働くこと」とはなんなのかを決めます。つまり働くとは、一つの道を極め、その道で飯を食えるようになることだと思います。相当優れた人でない限り、全体的に能力を振ると器用貧乏になってしまうからです。セルポールの人達は管理をする力を重点に置いて、それから観察する力、判断する力を延長線上としてのばしていると感じました。

僕も社会に出、就職するときになったら、のばす力を見極めて、勤務する会社に貢献できるようになりたいです。